



鳥取こども学園 学園だより

第 46 号
2019年12月1日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>
題字 尾崎悌之助



クリスマスに願いを込めて祈る

「弱い立場の人にはやさしい社会を」



鳥取こども学園 園長 田中 佳代子

いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ (ルカ・2114)



明治・大正・昭和・平成と歩んだ鳥取こども学園が、令和になって初めてのクリスマスを迎えます。近年多発している台風被害ですが、今年は特に台風19号により、各地で水害・停電と復旧もなかなか困難な状況、多くの方々がクリスマスどころではないと思います。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災した皆様方に早く平穏な生活が戻ることを心よりお祈りしています。全国各地で思いもよらない被害に遭われた方々のことを思うと当たり前前の生活がいかにありがたいものかを痛感しています。

10月から消費税も上がり、保育の無償化も始まるなど子育て支援が進んでいるように見えますが、果たして弱い立場の人にはやさしい社会になっているのか疑問を感じます。少子高齢化が進む中、本来ならば手厚く大切に育てられる子ども達が、身勝手な大人の犠牲となり、尊い命を奪われる痛ましい事件が後を絶ちません。IT社会となり顔を合わせて言葉を発しなくても情報共有や情報交換が出来ることにより人々のコミュニケーション能力は低下し、核家族化により狭い視野での子育てが主流となり、ゲームの浸透によってゲームの中で人を傷つける事に対する感覚がマヒしてしまい、

現実との境界線がゆるんでいるのではないかと。個人情報保護強化の産物として、人のことに感知しない風潮ができてしまった、等々、思い当たる事は様々です。そういう社会を生きている人達が、今、次々と親となって子育てをしているのですが、虐待する親だけを責めることの出来ない社会の背景もあると感じています。

もんもんとした気持ちは抱えてはいますが、社会を変える力は残念ながら持っていません。ただ今は、目の前にいる子ども達や保護者に精一杯寄り添わせていただくことで、『何が原因でこのような事態を引き起こしているのか』『出来る事は何で、出来ないことは何なのか』『どう手助けをすれば改善が図れるのか』等、多くの事を学ばせていただいています。

学園の理念でもある『共に育つ』です。子ども達や保護者の方々と一緒に鳥取こども学園が活かされた施設として歩み続けることを常に模索しています。

鳥取こども学園では、特別の事情がない限り入所してから退所するまでホームや職員を替えない方向で子ども達を支援しています。生活や心の安定基盤が保証されてこなかった子ども達が、安定した環境で、一定の職員と生活を共にするということによって、

生活の安定を通じて自己を取りもち、人を信じて未来に希望を抱ける歩みをして欲しいと節に願っています。そして、卒園した子ども達が社会の中で喜びの時を迎えた時は一緒に喜び、つまずいた時は一緒に悩める存在であり続ける人のつながりを大切にする学園は、今も昔も変わりません。保護者に対しても同じです。

ホームを大切に考えています。しかし以前は、一時保護やショートステイをホームで受けていた為、一時的な子どもたちの利用でホームの子ども達の生活が落ち着かなくなるという課題がありました。平成16年度より一時保護所を別棟に構え、専任の職員を配置して受ける体制に切換え、ホームの子ども達の生活が守られるようになりました。これも、子ども達の意見を反映しての変革でした。

現在、その一時保護所がフル回転で受け入れをしており、子育てに支援が必要な方々が加速的に増えているのを感じます。必要な地域支援ですが、残念なことにショートステイの子どもがカウント対象にならない為、一時保護所としては認定されず、法人資金持ち出し事業となり、長年の積み重ねで法人資金を圧迫しています。

必要とあれば予算に関係なく人を充てたり、事業を興したりという営みを法人は続けてきました。経営難に再度ご寄付のお願いも検討中です。法人の運営にご理解・ご協力をしてくださる皆様がいてこそ、このような歩みが出来ると感謝を常に感じております。子ども達と共に歩む法人として活かされる働きが出来ること・皆様に今後を支えていただけることをクリスマスに願いを込めて祈りたいと思います。

法人本部

理事長
藤野興一 記

ルカ・914748 「47イエスは……一人の子どもの手を取り、ご自分のそばに立たせて、48言われた。「私の名のためにこの子どもを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。……最も小さい者こそ、最も偉い者である。」

はじめに

相継ぐ風水害で被災された皆様に神様のお守りをお祈りします。キリスト教社会事業は戦争や大災害の中から祈りの内に歩んできました。受け継ぎたいと思います。

この少子化の時代に、川崎小学校バスター襲撃事件、相模原「津久井やまゆり園」殺傷事件、富山市交番・小学校襲撃事件など、無差別殺傷事件や「栗原心愛ちゃん虐待死」のような事件も繰り返されています。事前に食い止めねばなりません。

① カナダに行ってきました

今の世界は、1939(昭和14)年、ナチスドイツとソ連がポーランドを分割支配し、障害者、有色人種、ユダヤ人を次々強制収容所で殺し、世界大戦の悲劇に至った時代によく似ています。

日本では、毎日のように子どもが殺されています。何とか食い止めたいと、カナダのトロント、ビクトリア、バンクーバーで、学んできました。

カナダでは、冒頭の聖句のとおり、最も虐げられている施設や里親の子どもや若者、先住民、性的マイノリティなど小さくされた人たちを中心に据えた人権尊重文化を創り上げ

ていることをまのあたりにして、多くのごことを学びました。

②

「鳥取子ども学園を支えてきたもの」カナダで、日本の措置制度の素晴らしさと、子どもの人権・平和を守る者として「鳥取子ども学園」が歩んできたこと、学園職員は世界に通用する良き働きをしていることを改めて実感しました。

③

1989(平成元年)「子どもの権利条約」国連採択の前年、第1回高校生交流会が鳥取で開催されました。

又、子どもの権利条約を日本が批准した1994(平成6)年の第7回福岡大会で、参加高校生が施設改革を試み、マスコミが「施設内虐待」として大きく報道したこともあり、第8回大会が中止され、継続を求めて非公式「鳥取フォーラム」を開催しました。「高校生交流会を潰すな」という、高校生の涙ぐましく、誇らしい姿が忘れられません。

④

鳥取子ども学園の「18才までの養護保障と高校全入運動」から「高校生会」「全国高校生交流会」が生まれました。

非行がピークの頃「品行が悪く、成績も悪く、このまま社会に出せないからこそ、施設で見るべき」という高校全入運動は「高校生会」を生み出し、鳥取県指導員会を生み出し、そのことが、施設の変革と制度の変革を迫るものとなりました。

⑤

「高校生会」は、子どもと共に施設を創り、子どもと共に制度の壁と闘

い、制度そのものを変えていく日本におけるアドボカシーの萌芽でした。

しかし、当時のキャリア官僚と全養協執行部によって「第8回秋田大会の中止」という形でつぶされたのです。公式第8回石川大会、第9回松山大会は、各地の仲間を支えられ、質は保たれたものの、全養協執行部と厚生労働省の統制下での大会となり、気仙沼大会を前に撤退を決定するに至りました。

⑥

社会的養護下にある高校生たちの声を直接聴いた施設職員・アシスタントは、逃げだすわけにはいきません。各地で高校生交流会を継続し、子どもと共に制度改革に取り組んでいます。特に、2017(平成29)年6月、子どもの権利条約が児童福祉法に盛り込まれて以降、「社会的養護の課題と将来像実現」に向けて闘い続けています。

⑦

「社会的養護の課題と将来像実現」への取り組み

今、世界は、ベトナム反戦からフランスの5月など世界的な平和運動の高揚とグローバル化の進展から転じて、自国第一主義がはびこり、日本でも、国鉄、郵政、NTTなどの民営化、福祉切り捨てと自己責任論、排外主義と移民受け入れ拒否など新自由主義のさばり、はびこっています。

⑧

2017年8月、「新しい社会的養育ビジョン(新ビジョン)」が突然出されました。福祉切り捨てを許してはなりません。

欧米諸国で既に破綻している施設解

体論を、現場を知らない学者や政治家が日本に持ち込み、子ども不在の空論を展開しています。「新ビジョン」は「課題と将来像」を反古にしようとするものです。

欧米諸国では、既に施設から里親へ移行し、里親が職業化して子どもの「たらいまわし」が大問題となっています。誰にも受け止められず、低下した自尊心と絶望感から犯罪やテロ、無差別殺傷事件に走る若者が続出しているのです。

⑨

今後の取り組み

▽現場をあずかる者として、小さくされ、送り込まれる子どもの叫びを受けとめ続け、共に闘い続けるしかありません。学園に命からがら辿り着いた子どもや保護者が見事に希望の光に変わる姿を見る時、この上ない喜びを覚え、共に歩む素晴らしさを痛感しています。

▽高校生交流会再建を目指して、二度にわたり高校生とスタッフをカナダに派遣し、昨年7月29日～31日金沢市(石川県)で、今年8月5日～7日鳥取市で「インケアユースの集い」が行われました。

▽更に12月17日(火)からカナダのアーウィン所長を鳥取に迎え、あらゆる差別と子どもへの暴力、平和と正義のために闘う体制を創るため、子どもたちを主人公とする集会を計画しています。

12月20日に出来るだけ多くの子どもや大人に集まっていたください。

▽子どものためにはなく子どもと共に、鳥取県にアドボカシーシステムを構築する計画を進めています。参加下さい。

⑩

法人として8千万円の寄付募集を行っています。ご協力ください。

児童養護施設

鳥取こども学園

時の流れ（地域とのかかわり）

地域小規模児童養護施設こどもの家あかり

大 崎 早 智

地域小規模児童養護施設・子どもの家あかりを立ち上げて7年目。そして令和元年8月24日、本園と同じ小学校区に引越して一年が経過しました。私は今年度4月よりあかりに携わる事になり、立ち上げ当初の苦労、引越しのバタバタなど、知らずにこの場にいます。立ち上げ当初のメンバーは、子ども・職員共に退所・退職・異動などで変わっていましたが、朝起きて学校に行く、帰ってくる、と、宿題、遊び、時に激しい喧嘩と、どの季節に移り変わっても子どもたちの声が響き渡るあかりです。建物は決して新しくはないですが、子どもたちは「トトロの森みたい」「迷路だ」と愛着を持ち、大好きな家です。

春には、庭に芝を敷き、玄関には花壇を作りました。芝は水やりなどなかなか手のかかるものですが、時期によっては、綺麗な芝の絨毯が出来、子どもたちも水やりのお手伝いをしてくれます。そ



して今年は、ツバメが駐車場に巣を作り、巣立っていきました。おかげで、車・駐車場はフンだらけ。皆で何回掃除したことか：毎年恒例行事になりそうです。

日々のかかわりの中で近所の方々にも、声をかけて頂く事が増え、名前を覚えて頂けた事、支えて頂いている事に感謝です。今年は初参加の行事も多く、神社の練り歩きに参加し、「ワッショイ、ワッショイ」御輿もかつぎました。これからも地域に根付いていけるよう、行事にも積極的に参加していきたいと思っています。



あゆみ

地域小規模児童養護施設かつらぎの家

鷲 見 智 明

子どもたちが抱えているものに、心の中は、時に激しく揺さぶられます。何気ないことでも、職員同士で語り合いながら、それぞれの職員がのまのまの自分自身と向き合うことが一つの課題です。理解し合うことが、相手を大切にすることへと繋がります。関係職員や子どもたちの支えに感謝を感じながら、子どもたちが抱えているものにも改めて向き合っています。

昨年度より本園とのブロック体制をとり、「子どもたちが施設の生活の場をどう考え、感じ、受け止めているのか」と

いう視点で、日常の子どもたちの声に耳を傾けることに取り組んでいます。経験年数が浅い職員から多くの話題が提供されており、「当たり前」に疑問を持ち、発信し、深め合うことで、養育を多角的に考えるきっかけの場となっています。買い物に行つて夕食を作りたい、自分の写真がHPに載っている、防災訓練が毎月ある、きょうだいと一緒に生活したい……。子どもの声は現在を素直に映し出してくれています。見かけ上の限界や不甲斐なさや打ちのめさせられますが、子どもたちと一緒に生活を作り上げていく大切さの再認識や改善・実現へ向けた一歩に繋がっています。

先日の運動会では、競技に向き合う真剣な眼差しや成長に心動かされ、保護者の方や地区の方々と共に喜び合いました。地区に支えられ3年間務めた地区役員も終わります。かつらぎの家も5年目となり、アルバイト先で声をかけていただいたり、畑の野菜やカブトムシをいただいたり、子どもたちは地区の方々に日頃から気にかけていただいております。地域や社会の中で今後より一層子どもたち自身が主役となっていくってほしいと思います。

USJに行ったよ

地域小規模児童養護施設「子どもの家」より

西村 義裕

10月5日大阪にあるユニバーサル・スタジオ・ジャパン(U・S・J)へ行ってきました！

当日は天候にも恵まれ、暑いぐらいの陽気でした。ハロウィンのイベントをしており、コスプレをしている観光客が大勢見受けられました。



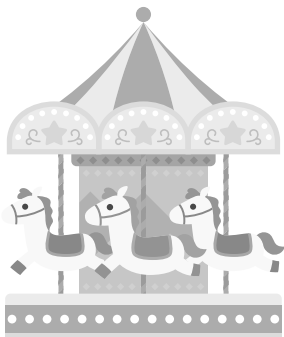
幼児は人の多さに圧倒され立ちすくむも、メリーゴーランドやコーヒーカップといったアトラクションを楽しみました。エルモやクッキーモンスター、ハ

ローキティ等の着ぐるみが出てきてダンスを踊ったり、一緒に写真を撮る場面がありました。が怖くて近寄れず…。(笑)

高校生はジェットコースターに乗った

りと様々なアトラクションを楽しみました。ただ、並ぶ列が長い長い…。(泣)ようやく並んでいざジェットコースターへという時に怖くて逃げだす職員がいたり、楽しさと笑いに包まれるホーム行事となりました。

帰りは皆疲れもあってか車の中でぐっすり眠っていました。運転手以外は！



乳児院

鳥取子ども学園乳児部

子どもと私のやりほっと

里親支援専門相談員

清水 暁子

乳児院の日常には、たくさん「子どもと私(職員)」の物語があります。それはたとえばこんな感じです。3つのホームから、思わずにやり、心がほっとするような「にやりほっと」エピソードを集めてみました。

ダンゴムシくん

Aくんとお外へ。「ダンゴムシいたよ！きてきて」と、小さな手のひらにいるダンゴムシと一緒に観察。しばらくすると、手のひらからダンゴムシが落ちてしまい、一緒に探すが見つからず…。へまた探そうよ、すぐ見つかるよ」と声をかけても、しばらくアスファルトを見つめるAくん。しょんぼりしながら「逃げたかったのかなあ…」

ぎゅっぎゅっ

私の膝に座っていたDくん。すると、Eちゃんが傍らにきてDくんを押したり、髪の毛をひっぱったり、私のお膝の取り合いに。へめんめだ」と言っても

やめないEちゃん。ずっと耐えていたDくんは、「いいよ〇〇ちゃんの膝に座りたいんでしょ」と。そんなDくんを

ぎゅっぎゅっ抱きしめてへえらいね、怒らずにすごいよ、お兄ちゃんになった

ね」と言つと、Dくんの目から大粒の涙がポロポロ。

ね〜

離れたところで私とHちゃん目が合う。首をかしげてにっこり、ね〜と。何度か度も同じやりとり。Hちゃんも私も面白くてだんだん近づいて、とうとうお互いの顔がごっつんこ。2人で笑いながら、あいたたたた〜。

見つめ合いっこ

突然、「ねえ、ねえ」と言い、目をじーっと見つめてくるJくん。へなあに〜と聞くと、「あつくんがおめめに映ってる」と大喜び。へすごい！よく気がついたね」と一緒に驚いて、しばらく2人で見つめ合いっこ。

よしよし

私がふすまの角に頭をぶつけて「あいたたた」と言つと、Kちゃんは私の方を心配そうにじーっと見つめ「いてて」と言い、頭をよしよし。へありがとうKちゃん」と言つと、Kちゃんもニコリ笑顔。

優しいヒーロー

みんなでテレビを見ていた時のこと。戦隊シリーズの悪者が怖かったのか、機嫌よく過ぎていたMちゃんが号泣。Nくんが「Mちゃん大丈夫だよ、Nくんが守るけー」と登場。それを聞いていたSくんも「Nくん行こー」と、見えない敵と戦う2人。泣いていたMちゃんもいつの間にか笑顔に。ホームには優しいヒーローが2人も！

おねえさんになりました

私と一緒にトイレへ行ったTちゃんが「みてーおしっこできるよー」と言い、便器に座ると大成功！私が「すーいー」と褒めると「Tちゃんおねえちゃんー」と、とっても誇らしげに。

まねっこ

私が赤ちゃんを抱っこし、あやしているのをいつも見ているRちゃん。いつからか、人形を抱っこし、左右に揺れながら軽くトントン。私と目が合い、「わたしにもできるよ」と、ちょっとおとなになった気分で嬉しそうに微笑むRちゃん。

わたしたちなかよし

いつも仲良しのーくんとYちゃん。2人一緒にねんねをしたはずなのに、お部屋の奥からキャッキヤツと声が…。覗いてみると、先に目覚めたーくんが「ねえ、

おきてよー」とYちゃんを起こし、2人で見つめ合い「ニニニ」。まだ寝たりないのに大丈夫？と思う反面、2人の可愛さにほっこり。

「だっこ（つて）」

まだ言葉の話せないMくん。抱っこしてほしい時は両手を大きく上げてアピールするMくんが、初めて「だっこ」と、はつきりおしゃべり。これには私もびつくり。車は「ぶぶ」ブタは「ぶー」とあふれるように出る言葉。おしゃべり楽しいね。

にんじん大好き

にんじんが大好きなSちゃん。あまりに「にんじんーにんじんー」（ちょーだう）と言つので、いつのころからか、私は自分のお皿のにんじんをSちゃんの



おかわり用にと隅っこに分けるように。なんだか私の方が好き嫌いているみたいじゃない？

ここにいるよ

夕食後、私の膝に座りくっつくべロくん。ホームでは、お腹がいっぱいで眠くなった小さい女の子たちが同時に泣きだし「えーんえーん」の大合唱。するとDくんが「大丈夫、ここにいるよ」と女の子たちの頭をヨシヨシ。ありがとっね、Dくん。

今年9月、乳児院の今後のあり方検討委員会（全国乳児福祉協議会）は、乳児院の将来像を「乳幼児総合支援センター」とする提案を報告書としてまとめました。先日、この報告書に関する研修会があり、「どんな変化を求められているのだろっ」と少し不安を感じて参加しましたが、逆にとても励まされることになりました。というのも、提案された六つの機能は、これまで乳児院と家族や里親が、子どもの育ちを繋ぐために積み重ねてきたことの整理であり、その充実に、日々の養育をしつかりと支える拠点機能が大切だということがわかったからです。「にやりほっと」エピソードは、乳児院が守っていききたい日々の養育を見つめなおすきっかけを、私たちに与えてくれたような気がします。

児童心理治療施設

鳥取子ども学園希望館

鳥取県は全国一位

館長 花川 治 応

とある調査会社のアンケート調査の結果、鳥取県は「女性のストレスの少なさ」でダントツの全国一位だそうである。しかも2016年も1位で3年ぶりの返り咲きらしい。加えて移住者数の累計でも全国一位のことである。

人口も面積も最下位レベルの鳥取だけど、実はこの規模程度が一番人には過ごしやすいといふことのようだ。

そのことを予言した人がいる。30年前、作家の野坂昭如氏が講演会で来鳥された際に言われたセリフ「最下位がいつか周回遅れの1位となれ。」が現実になったようだ。

1位になった要因は、①通勤時間の短さ ②家庭内における存在実感 ③家族との会話の多さ ④リアルな友人関係 ⑤社会での存在実感 等があげられている。特に都市部に多いバーチャルな人間関係（通信機器に頼った部分的なやりと

り?)でなく、五感を伴ったリアルな友人、家族等の人間関係の満足度が高いことは、人が生活するのに大切なものは架空の世界だけでは得られない事を明確に示しているように思える。

人が多すぎる所よりも、鳥取くらいの人(人口密度)と、地域のモノ(社会資源や自然)との距離感は、実は丁度良いということだともいえる。

希望館でも大切にしているのはこの「人と人のリアルな関係の中で営まれる生活」なのであり、家庭的雰囲気大切にすべく小舎制を維持してきたことが間違いないと改めて思うところである。

しかし、リアルな人間関係はリアルな厳しさも伴う。

「子育て中は、みんなで吊り橋を渡っているような毎日だった。」

何かで読んだ本の中で、こんな事が書かれていて妙に納得した。子どもと接するとき、毎日、毎日この判断で良かったのだろうか。ハラハラドキドキしながら過ごし、結果として振り返るしか成果は確かめようがない。といった感じで理解した。私自身還暦を過ぎても変わらない悩みである。大人になるともっと迷わないものだと思うのだがそんなことはない。

いし、反対に簡単に迷わない自分にはない。たたくとも思ふようになった。

希望館での子どもの生活を振り返るときにいつも感じること。

「自省・内省と批判・評価」

自分の何が、どこが足らなかったのだろうか? これで良かったのだろうか? あの子、あの人はどうして分からないんだろ、気がつかないんだろ?の繰り返し。

自分の事を考えすぎると苦しくなる。相手のことを考えすぎると腹が立つ。何でも話し合いで解決出来るほどみんな立派でもない。そんなときはやっぱり「逃げ場」が欲しい。大人も子どもも「逃げ場」は大切だと思う。

法人の敷地の川向こうにはうっそうとした竹林と河川敷に沿って小さな畑があった。迷ったり、困った時にぼんやりと竹林と手入れされた畑を眺めていた貴重な「逃げ場」だった。今年になって竹林があつという間に伐採され宅地造成工事が始まり、逃げ場となっていた自然が消えた。

今までは見られることを気にしないで安心して眺めていた(逃げていた?)場所がなくなっていくのは寂しい気分である。

私の手帳には、そんな弱気な自分をいさめる言葉があつて、時々読み返しては日々を過ごしている。

「ラビンドラナート・タゴール」

「果物採集」より

危険から守り給えと祈るのでなく、危険と勇敢に戦えますように
痛みが鎮まることを乞うのでなく、痛みに打ち勝つ心を乞えますように

人生という戦場で味方を探すのでなく自分自身の力を見いだせますように
不安と恐れの下で救済を切望するのでなく自由を勝ち取るために
耐える力を願えますように

成功の中にのみ貴方の恵みを感じるような卑怯者でなく
失意のトキにこそ貴方の御手に握られていることに気づけますように

感謝



保育所
鳥取みどり園

親子で一緒に
あそびましょう

山 根 愛

わくわく子育て支援センターは今年で22年目を迎えています。

月曜日から金曜日、朝9時半から午後3時半まで、未就園の子どもとその保護者の方や祖父母の方が一緒に遊ぶ場です。毎月の行事として親子教室、育児講座、おはなし会、身体測定、誕生会をしています。

今年の3月にリフォームされて室内が新しくなりました。明るく開放的な空間となり、ままごとコーナー、お絵かきや粘土、パズルのコーナー、赤ちゃんコーナー、汽車やブロックのコーナー、滑り台で遊ぶコーナーに分かれていて子どもたちが好きなところで気になる玩具にふれ、遊びを楽しんでいます。「以前、兄や姉の時に利用していたんです。」と第2子、第3子、第4子と一緒に久しぶりに来所される方もあり、親子で安心できる場所になっているんだと嬉しく思いました。また、今年度は育休を取得され

たお父さんが利用されたり、お父さんの休みの日にお母さんと一緒に利用されたりと、お母さんだけではなくお父さんや祖母の利用もあり、時代の流れを感じると共に嬉しく思う毎日です。0歳児は特に見慣れないお父さんに人見知りで泣く姿もみられますが、慣れてくると自然とお父さんの側にいき、関わりつとする姿もみられたり、自分より月齢の小さいお友達に玩具を貸してあげる微笑ましい姿もみられ、子どもたちの成長を感じています。



これから「共に子育てを楽しめる仲間作りの場」「お母さん方が安心できる場」として子育てのお手伝いをしていきたいと思っています。そして、保護者の気持ちに寄り添い、良き話し相手、相談相手、

良き遊び相手となるよう、日々精進していきたいと思っています。

これからの子どものために

山 本 裕 美

夏が終わり、秋へと次第に季節が変わる中、4月から入所してきた子どもたちも、すっかり園での生活に慣れ、かわい笑い顔をたくさん見せてくれています。

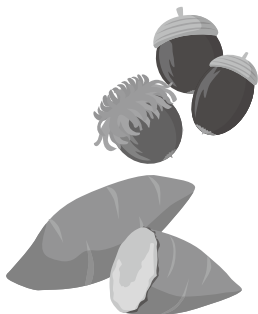
平成から令和へと時代も変わり、子どもたちを取り巻く環境も変わりつつあります。私が子どもだった頃にくらべて、電化製品の発達により、生活はすっかり便利になり、小さい子どもたちが普通にタブレットやスマートフォンやテレビゲームを使いこなしてしまつ現代。そんな世の中になっていく中で、今の子どもたちはどう育っていくのが、私達、保育者の課題ではないかと考えることが多くなりました。

先日、戸外あそびでどんぐり拾いをしました。まだ2歳に満たない子どもたちが「あつたー!」「どんぐりー!」とうれしそうに夢中で拾う姿を見て、自然の不思議さ、面白さに心を動かされる体験を重ねていくことの大切さを感じるひとときでした。

「空は青いねー!」「風が吹いて気持ちがいいねー!」と自然の気付きを共に感じ、子どもたちと一緒に様々な実体験を重ねていきたいと思っています。そして、子どもたちとしっかり向き合い毎日を一緒に楽しく過ごしていくこと、一人ひとりの又はそれぞれの気持ちを受け止めながら、真剣に関わっていくことを心がけながら、これからも子どもたちと真正面から向き合い心に寄り添っていきたくと思っています。



さつまいも掘りをしたよ!



診療所

子どもの発達クリニック

「飼い慣らす」こと

事務員 由 井 みどり

今年も残すところわずかとなりました。月日が経つのはとても早いですが、当院は前年10月より、事情により初診受付を見送らせていただいたり、診療時間を見直したり、患者の皆様にご不便をおかけしていますが、当院の診療体制にご理解・ご協力賜り感謝申し上げます。

さて、私は『星の王子さま』という本が好きなのですが、今年の夏に本屋の文庫本コーナーで発見して、改めて読もうと購入しました。子どもの頃はよく解らなかった言葉やニュアンスも、今ではすんなり入ってくる感覚。同時に、「ああ、私、オトナになっちゃったのかしら」という切なさもありますが、やはりこの本が好き。懐かしみながら読みました。今回はその中から、王子さまとキツネの場面を紹介します。

王子さまは、自分の星で大切に世話をしていたバラの花（とてもワガママで世話を焼かせるバラです）と喧嘩し、旅に出

ます。他の星を転々として地球に辿りつき、キツネと出会います。話の流れは割愛しますが、キツネは王子さまに「おれを飼いたいからくれー」と懇願します。（飼いたいから、とはなんとも動物らしい表現。つまりは「絆をつくる」ということです。）王子さまはキツネに、飼いたいからにはどうしたらいいのか尋ねると、キツネは、「忍耐強さが必要」「習慣が大切」だと教えます。そして、王子さまはキツネを飼いたいのですが、お別れの時がやってきます。キツネは別れ際、王子さまに、「秘密」を教えました。「ものごとは心で見ないとよく見えな。肝心なことは目に見えないんだ。」「きみがバラのために費やした時間の分だけ、バラはきみにとって大事なんだ。」バラのことで悩んでいる王子さまは、このキツネの秘密で、自分のバラは他のバラとは違う、世界で1本のかけがえのないバラなんだという事に気づきます。

誰かのために忍耐強く、時間をかけて自分にとってかけがえのない一人になる。たとえば児童福祉の分野でも、そうかもしれません。出会ったときは何万人の中の一人。少しずつその子を知っていく、心の距離も縮めていく。その子が抱えている困難を知る。そしてその子のために時間を費やす。時には、疲れてしまい、時間を費やすことが辛く思えることもあるかもしれない。王子さまのように、遠くへ旅に出たくなるかも。でも結局は、いつの間にかその子はかけがえのない一人になっていて、その子をとて愛していることに気づくんじやないでしょう。そしてこれは児童福祉のみならず、人生においていろんな場面を通じて、人生に思いがけず、大切な人が増えることで、豊かに生きていけるのかもしれない。



児童家庭支援センター「希望」子ども家庭支援センター

アサーションについて

副所長 岸田有加

先日、アサーショントレーニングの研修へ参加してきました。

アサーションとは、「自分も相手も大切にしたい自己表現、自分のことを分かってもらい、相手のことを分かるためのコミュニケーションスキル」だそうです。

基本的な考え方として「自己尊重」（自分も大事に、相手も大事にする）という視点がポイントだということです。そのため、自分がどう感じているのか、良い自分も悪い自分も公平に自分を理解し、それを受け入れること。そこで感じたことを目を向け、表現してもいいこと。表現することを自分で選択できる（していい）ことが大事だと言われました。自分を受け入れるからこそ、相手を受け入れられるということだそうです。

不満を感じることは我慢をしている証拠だとも言われました。

本当は嫌だというつなネガティブな気持ちも、我慢するのではなく、嫌な気

持ちも自分にはあるというありのままの自分を認めてあげられるといいだろうと思います。と、言っつのは簡単ですが、考え方を考えるのはとても大変な作業です。なので、心から認めなくても、頭でこつこつ考え方もあると思えるヒントになったらいいなと思いました。

親子関係、友達関係、仕事関係のなかで、コミュニケーションのズレからくるしんどさは少なからずあると思います。日々の生活に追われていると、自分の心に耳を傾けることはなかなか難しいと思います。だからこそ、少し立ち止まって一緒に困ったことやしんどいことを整理するお手伝いをさせてやってください。

※家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆる相談に応じています。相談料は無料です。

○電話相談

月曜日～金曜日 朝8時30分～夜12時
（緊急の場合は、休日、祭日、時間外も24時間対応）

○来所相談

開所時間 月曜日～金曜日
朝8時30分～夕方5時30分
専門の相談員が対応します。

里親支援機関

里親支援とつながり

植物と子どもの成長のたとえ

所長 遠藤 信彦

今年の10月より、「フォースタリング・チェンジ・プログラム（以下FCPと略）」が始まりました。これは、自らの家庭で子どもを預かり育てる里親さんのために開発された、子育て技術向上のプログラムです。イギリスから日本に輸入され、まだ数年しか経過していませんが、多くの自治体が導入し始めています。

FCPは、毎週1回3時間を12週連続、計36時間というかなりのボリュームなので、参加される里親さんに相当な負担を強いるのですが、にもかかわらず9名が参加してくださり、大変熱心に取り組んでくださっています。

私は「ファシリテーター」として、プログラムの進行をつとめます。知識を提供するだけではなく、参加者のみなさんの意見、情報、気づきの交換をうながす役目です。最初は正直「うまくいくのかな？」という不安がありました。いざ

始まってみると、みなさんの、相互の学びの盛り上がり、こちらの方が勉強させてもらっています。

プログラムは、500ページのマニュアルに基づき進みます。まだ序盤までしか読解できていないのですが、ここまでも、大きな学びがあります。

マニュアルの冒頭はこのような文章で始まります。「子どものくらしにおける、子育ての重要性を強調するとき、私達は、よく植物にたとえます。植物をある場所から別の場所に移すと、それまで以上に大変な労力がかかります。植え替えられたばかりの植物には、こまめな水やり、成長をうながすための暖かな日差し、根っこをしつかり下ろすための、ふかふかで栄養豊かな土が必要です。保護された子どもも同様に、ある場所から引き抜かれています。彼らが別の場所で、安心・安全にくらすためには、特別な手当てが必要なのです」と記されています。そして、別の章では「人間にとって、ほめられる、ということは太陽の光のようなものです。私達は、それなしに、花を咲かせることも、成長することもできません」と続きます。

を買って帰りましたら、すぐに葉が枯れ、落ちてしまいました。ひよろりと残った茎のみを鉢に植え、それでもせつせつと水やりなどをしていましたら、なんと一ふた月もたった後に新芽が出てきました。地上からは見えない部分で、いっしょにつくめいに新しい根を張り、栄養をたくわえていたのですね。

私が、植物のたとえを理解できたように、みなさんの胸にも、教えがすっと腑に落ちるよう、マニュアルを読み込み、エッセンスを伝えたいと思います。ハードな研修が、みなさんの達成感に満ちた笑顔で終わられるよう、がんばります。

自立援助ホーム

鳥取フレンド

『支援』ということについて

寮長 内藤 直人

鳥取フレンドでは現在、8名が生活しています。うち1人は一度、お金をためてアパート自立をしたのですが、仕事や日常生活が上手いなくなり、立て

直しをするために鳥取フレンドに戻ってきた若者です。年齢も制度の枠を超えているので、いわゆる「アフターケア」の延長で生活をしている状態です。

それ以外にも退居していった人たちも含めると実際に『支援』をしている人たちはどのくらいになるかわからないというのが実情です。全国の自立援助ホームのスタッフの間では「出た後の方が本番」ということばがあり、入居しているときよりも手厚い支援が必要な場合も多くあります。ひだまり（鳥取県退所児童等アフターケア事業）が出来てからは、すいぶんお世話になり、以前ほど困難な状態に陥るということは少なくなりました。それでも鳥取フレンドを退居した後、どこにも相談ができず、やっと我々のところにやって来たときには、状況が複雑になっており、鳥取フレンドの職員だけではなんとも出来ず、弁護士をはじめとして色々なところと連携をとり、なんとか事態を収めるといったことが少なからずあります。日常的に相談ができる関係を作る事が大事なのは重々わかってはいるつもりですが、それがなかなか難しいのです。

どうしても施設だと「職員」と「入居者」に分かれてしまい、その壁を越えることがとても困難になってきます。小さ

自立援助ホーム 鳥取スマイル

バーベキューで 火おこし大会！

寮長 田村 崇

いころから児童養護施設で育った入居者は特にその意識が強く、それはネガティブなベクトルだけでなく、単に「お世話になった職員に迷惑をかけたくない」という思いから、相談に至らないということも多くあります。よくよく考えていくと『支援』という言葉が『支援する側』と『支援される側』を隔ててしまっており、『支援』ということば自体にも違和感を抱かざるを得ません。

鳥取フレンドに入居する若者に対してはいつも「我々は職員ではなく、一人の人間として関わっている。『人付き合い』だ。」ということ伝えていきます。実際には『支援』ということばのもとに大きな隔たりはあるのだと思うのですが、ことばのニュアンスだけでもその隔たりを超えていかなければ…と思っています

し、実際に退居した後は、職員としてというよりも人として心配だから…という気持ちの方（当然、入居している間もそうですが、より一層）が強いです。鳥取フレンドを出て行った若者たちには職員だけでなく、地域でもたくさんの『人付き合い』ができる場や関係ができればと思っています。皆様には何かのきっかけでうちの子たちがお世話になることもあるかもしれませんがそのときはよろしくお願ひ致します。

今年の夏、スマイルの若者たちとスタッフ皆で由良のお台場（北栄町）へ行って、バーベキューを楽しみました。台風のこともあり心配していましたが、良い天気となり絶好のバーベキュー日和となりました。

現地につき、さあ始めようか！と思うたとき、ふとわたしの頭の中によぎったのが、みんなは火をおこしたことからあるのかな？でした。いつもならスタッフ（大人）の我々が仕切って準備を始め、これ手伝って！とか、あれ持ってきて！とかこんな感じで進んでいくのですが、丁度バーベキューする場所も貸切状態だったので、しめしめと思い、よし、これから火おこし大会始めます！と言って、2人1組で3つのチームになってもらい、炭やライター、着火剤などの説明を簡単に済ませて、よいスタート！

皆は呆気にとられたのと、どうやっていいのだろうという感じで戸惑い、なかなか動き始めません。最初のうちはわたしたち（大人）もニコニコしながら、見守っていたのですが、いつまでたっても動き、が出ない状況に、場所を借りている時間の事も焦ってききました。が、それでも手出しはしませんでした。多少ヒントをだしたり、わざとらしくブロックや網を置いてみたりとしてしまいましたが…。

ようやくスマホで検索して調べたり、2人であだこつだやりとりしながら網やブロックを配置してみたり。自然と彼らと一緒に我々スタッフ（大人）も、食材などを出したり火おこしのサポートを始めたたりして、ようやくお肉と野菜を焼き始めることができて、美味しくいただくことができました。

ごくありふれたバーベキューでの1コマです。でもわたしはこの中に色々な気付きや発見があったなと思いました。それぞれの個性も改めて知ることができました。細かなことも含めるといっぱいあるのですが、一つだけお伝えしますね。

彼らは、失敗すること、に強い不安を持っているようです。そして「正解」が見えてないとなかなか動けないようです。勿論すべての若者がというわけではなく、彼ら自身の個性やこれまで育ってきた中での体験、出会ってきた人たちの言動、色々なことが作用しているでしょう。

自らいろいろ考えて、動いてやってみる！上手いかなかったら次の別の方法を考えてまたやってみる！それでいいんだよ！このことを、それでいいんだと感じる安心感を持つてもらいたいと思います。そのためにわたしを含め我々大人、社会は、彼らの活動に対してもっとと広くて深い「許容」を持たなければいけない！とわたしは強く思いました。

日頃より鳥取スマイルへのご理解とご支援に感謝申し上げます。これから若者の未来を創るパートナーとして若者と、そしてあなたと一緒に歩ませて頂きたいと思っています。



鳥取養育研究所

鳥取養育研究所が大切にしていること

運営委員長 米 田 怜 美

100年後の子ども達のこと、社会の状況などを考えながら、今の研究や実践に取り組むのだと、鳥取養育研究所の前身である鳥取養育研究会の田丸会長は常におっしゃいます。100年後に何がどうなっているのか、めまぐるしく変わる現代社会の一員として自分自身も生きていくことは分かりながらも、100年後を想像もできないでいた私にとっては、その言葉は壮大なことのように感じました。

その後何年かたち、鳥取養育研究所の役員となり、研究所に関わる皆さんと共に、趣意書を考えることとなりました。考える上で、目先のことのみならず、歴史や、現在、これからのために私達がどうありたいのか、あらねばならないのか、より良くあるために、何をすべきなのかなど多くを考える必要がありました。その中で、前述の田丸会長の言葉を思い出し、私なりにではあります

100年後のことを見据えておくことの意味を感じられるようになりました。

これまで何度か、養育研究所の趣意書を読み返すことはありましたが、改めて読み返し、この紙面をお借りし、皆様に興味書の一部をご紹介し、養育研究所が大切にしていることをお知らせしたく思います。

養育研究所が掲げていることは、

『第一に積極的に研究活動を行う。第二に養育者（支援者）を支える研修活動を組織化する。第三に自由活発な意見交流や実践や理論を共有できる機会を設定する。』

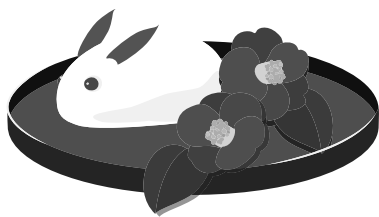
この柱に沿って、事業を展開しているところです。そして、『社会制度等の社会システムの改善・改革を行っていき、安心して子どもを産み育てられる社会を実現していきたい。』と考えています。

『すべての子どもたちに、人間としての尊厳と子どもらしい生活、多面的で調和のとれた発達を保障するために、「鳥取養育研究所」での活動を充実させ、一人ひとりの子どもが大切にされる社会づくりを目指していきたい。そして、子どもの養育にかかわる人たちの支えとなる組織であり続けたい。子ども自身が権利の主体者として生き生きと成長・発達し、子どもの参加・参画を保障する社会を目

指すべく、21世紀の養育理論と児童福祉を創造していきたい。』

ということを大切にしています。これまで、県内外の子どもに関わる職種の皆様、弁護士や大学の先生など、随時100名程度の方に所員となっていたいただいております。もっと幅広い様々な視点での議論や、新たなアイデアを出し合ったりと、活動を展開していきたいと考えていますので、皆様のご参加をお待ちしております。

私達が日々忙しく、目の前の出来事に追われてしまつことは、やむを得ないのかもしれませんが、それでも、折に触れ、100年後の子ども達へ何ができるのか、共に考える時間を持つことができれば幸いです。



障がい福祉サービス事業 はまむら作業所

法人内連携・交流を続ける

管理者 山 岡 宏 樹

私は、前職である高齢者介護のお仕事、そして、今従事している「障がい福祉サービス」でも「法人内の協力」、「多世代交流」を実践し続けてきました。10年以上前の大学生時代の学び、実習、研修等でもよく取り上げられていましたし、何となく先輩方もしており、「大事」そうだから、という事で、私自身も見真似でそれを20年近く事業所として取り組んでいます。

今年、春先より法人内の「鳥取こども学園乳児部」、「とりっこらんど」「鳥取みどり園」、「てくてく」と私達の活動の「一環である農作物の栽培（さつまいも・さといも）」を一緒にに行い、先日、何回かの収穫イベントが行う事ができたところです。また、先日、稲刈りの緊急協力という事で、はま猿こども、法人内の有志のスタッフの皆さんと泥まみれになりました。はまむら作業所のみならずで収穫を行いました。終了し何があったのか…。単純

に皆さんとの活動が楽しかったただでなく、それがいくつかあったように思います。

1つ、時間の感覚の違いです。当然、一緒に活動をした方の対象が「ごども」である事と、普段私達に関わるのは主に障がい者（障がい児）とほとんど「大人」である事と違いがあります。普段の日中活動、就労活動であれば「作業」として普通に流してしまつたことになる事をこども達（乳幼児、小中高生等）は「おじさんこれなあに?」、「どうやってとれば芋がおれないの?」など質問をたくさんしてくれました。全部がこたえきたわけじゃないですが、質問をほっとく訳にはいかないのてこたえながら、「もしかして、普段同じ時間を過ごしている利用者さんとの時間の感覚の違いがあるのを、気付けないのかも」と感じました。

もう1つは、関わり方の感覚の違いです。普段から「障がい福祉サービス」の従事者として就労活動や日中を共にしており、当然必要な関わりはスタッフ皆で実施しているつもりです。今回、稲刈りの中で、法人内の有志のスタッフがはまむら作業所の利用者さんに稲の束を渡したその行為ですが、その時、渡す際の声かけが丁寧だった事、それに対し、はまむら作業所利用者さんも丁寧な行動をと

ろうと反応した場面を見る事ができました。「これだ」と感じました。事業所の支援、作業をほぼ毎日一緒にしていると「慣れ」的な感覚が生まれ、丁寧さが減ってきていたように感じます。わざとらしい丁寧さは不要と感ずますが、障がいがあるうと、なかるうと大事にすべき人としての尊重は、常に持ち合わせていないといけない事を学んだように思います。

このような支援の感覚の点検を時々行う事が、はまむら作業所として必要な支援の学びにつながると思っています。あまり難しい事ができませんが、これからもはまむら作業所利用者さんが活動し易いよう、何より日々楽しく作業が行えるよう法人内の皆さんと活動出来たらと思っています。



事業所内保育施設

とりっこランド

開所して半年が経ちました

チーム長 上野 千鶴

外から聴こえる虫の声に、もうすぐ2歳になる男の子が「リンリン」と言いながら窓に近づき耳を傾けます。秋を感じる頃となりました。

鳥取市や東部地区各所の子育て支援センターなどに「とりっこランド」のチラシを置かせて頂くなど、広報活動の成果もあつてか、6月頃から問い合わせが増え、11月1日現在通常保育児7名（0歳児…4名・1歳児…3名）と残り2名枠で一時保育を行っています。一時保育のニーズも高く、県外からの問い合わせなどもあり、お断りさせて頂く日もある程です。病後児保育の方はというと、法人職員のお子さんや、隣のみどり園のお子さんの利用が時々ありますが、これから冬場になると地域のお子さんの利用も増えることが予想されます。

そんな日々の子どもたちはとて、
「とりっこランド」で一番小さいお友

だちは生後3か月の乳児さん。元気な泣き声が室内に響く中、保育者は、オムツ?ミルク?それとも抱っこ?ねんねの時間?と状況を見ながら欲求を満たしていきます。満たされるとホヤッと何とも穏やかな表情になります。入園して1か月で寝返りができるようにもなりました。丁度1歳のお誕生日を迎え入園した男の子は、人の出入りに敏感でその都度泣いて保育者を求めていました。今ではハイハイで自由に動き回ったりつたい歩きをしたりと行動範囲も広がってきました。最近では宙立ちも数秒できるようになり、もうじき歩き始めそうです。そして、1歳後半の男の子は、日々語彙の量が増えだし、話すこと、伝わるのが楽しく



なってきました。子どもたちの発育・発達 はめざましく、驚きと喜びの連続です。

また、一時保育利用児は通常保育とは違い1か月に数回又は週に数回の利用頻度のため慣れるのにも時間が必要です。そのため、子どもの個性を引き出し、理解し、少しでも楽しく過ごせるよう心がけながら保育にあたっています。



ます。

子どもの場面、場面の姿にはひとつひとつの意味があり、それはすべて成長へと繋がる出来事です。保育者はそこをしっかりとキャッチし認め、見守り時には手助けもします。いろんな事を保育者に受け入れてもらうことにより、自発性や探索意欲を高めていく時期な

のです。

これから、子どもたち、保育者、そして「とりっこらんど」が少しずつ成長していくことができるよう、お子さんや保護者の方が安心して利用できる場所を提供していけたらと思っています。



退所児童等アフターケア事業

ひだまり

いつも皆様には、ひだまりへのご支援・ご協力・励ましをいただきましてありがとうございます。

ひだまりは、鳥取県内の児童養護施設等を退所した方や、退所を控えた児童へ生活支援（健康・管理・お金の使い方）・就労支援・自立研修開催・施設出張訪問（キャリアアカウンセリング）・協力企業へ職業見学・職場体験・調整や同行等をおこなっています。

今年度に入ってから振り返りと、今

後の取り組みについてご紹介させていただきます。

【5月】

鳥取こども学園のこども祭りに、フールツポンチのコーナーを出店。今年は、前日準備から、鳥取こども学園の先生2名にご協力いただき、さらに当日は、自助グループレインボーズからOBが1名手伝ってくれました。天候にも恵まれ、あっという間に予定販売数に到達しました！買いに来てくれる子ども達の中には知っている顔も増え、来年も参加させてもらうことを楽しみにしています。

【7月】

鳥取県内の施設入所中の高校生以上を対象に『上手にお金と付き合おう！』ver. 3』を開催しました。今回は、因伯子供学園の自立研修担当職員さんに会場準備のお手伝いをいただきました。研修では、退所後の生活を、食材・家電などかかる費用を算出し計算、アパートの選び方など学びました。感想の中には、「ばくせん」としている将来のことを真剣に考えていることと改めて思った」「1人暮らしをする時に、どれくらいのお金がかかるのかわかってよかった」と言った声がありました。



自立研修

【8月】

ひだまりの協力企業である、特別養護老人ホームなりすな様（鳥取市青谷町）にご協力いただき高校生1名、ホーム職員さんと一緒に清掃業務の職場見学に行きました。施設の見学や現場で働くスタッフさんからのお話、案内して下さった施設長さんのお話、質問タイムなど将来の職業選びに向けた有意義なひとときとなりました。今後、鳥取県内（東部・中部・西部）でのご支援、ひだまり事業に興味をもってくださいる協力企業様がいらしたらぜひ1度お話し伺いたいです。

その他、自助グループの育成の一環として、レインボーズの活動として、レインボーズ会（4月、8月、9月）の開催、



教会バザー（6月）に参加をしました。
 今後は、10月 光徳子供学園 こども祭り参加、第2回自立研修 はたらくゼンパイ〜OBトークショー〜開催、11月 卒業生記念品製作、レインボーズ会、12月 もちつき大会、1月 第3回自立研修、レインボーズメンバーによる卒業生記念品贈呈も予定しています。
 個別の支援では、ひだまりに繋がった時点ですでに問題が大きくなっていることがあり、ひとりひとりの状況や思いも汲み取りながら動くと共に、支援方針の組み立てや関係機関と連携、根気強さや柔軟な対応が必要になってくる場面が多いと感じています。時代にあつた支援をおこない、社会資源の1つとして役に立つよう活動していきたいと思っています。
 今後とも、施設のみならず関係機関の皆様、地域の皆様、協力してくださる皆様、どうぞ応援の程よろしくお願いいたします。

当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、下記のとおりです。
 心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (R1.5.7～R1.10.31)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
田 中 俊 道	田 中 耕 自	磯 田 教 子	橋 詰 一 枝
田 村 明 子	田 中 昶	国 富 一 郎	中 西 敏
浅 野 和 子	山 田 弘	正 岡 康 弘	パ ル ス 電 工 (有)
柴 田 和 仁	鳥 取 医 療 器 械 (株)	藤 井 喜 臣	畑 山 博 史
藤 原 毅 芳	代表取締役 玉木淳二	熊 谷 美 憲	い さ み や 商 店
鈴 木 洋 平	田 川 成 士	水 野 浩 伸	土 江 浜 代
松 下 暢 子	竹 内 和 恵	白 井 道 子	大 谷 恭 一
堀 い づ み	武 安 泰 雄	杉 村 英 子	濱 崎 淳 子
鳥取県生花商園芸組合	はやし社会保険労務士事務所 林 義 雄	杉 森 忠 篤	中 山 健 二
(医)水本クリニック	タニグチ・ヘア・サロン 谷 口 義 明	亀 井 勲	中 村 匡 子
村 上 収 子	紀 平 由 美	かわぐち皮膚科 川口俊夫	竹 下 敏 子
村 上 悦 子	岡 田 武	入 江 順 子	竹 下 努 次
(有)ワールドワン	堀 内 苑 生	梅 翁 院	渡 邊 哲 一
花 木 正 史	田 中 和 子	いしど歯科クリニック	古 川 潤 一
三 木 康 二	(福)南 野 育 成 園	田 村 昇	坂 口 茂 子
石 田 晤 玲	園 長 三 宅 嗣 朗	米谷食品センター 米谷易子	北 村 享 詳
(有)鳥取システムサービス	竹 内 一 昭	石 谷 充	福 田 義 二
下 石 義 忠	ゆうわ総合法律事務所	中山小児科内科医院 中 山 裕 雄	西 田 淳
森 田 元 章		高 野 澄	
松 本 勲			

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
(医)さとに田園クリニック 理事長 太田匡彦	河 原 地 区 公 民 館 河原地区人権啓発推進協議会	寿 司 江 戸 吉	(株)三協レンタル 代表取締役 民野純男
半 田 卓 実	蔵 本 美 知 子	田 中 あ か ね	福 士 久 美 子
(有)エフエムエルサービス	安 本 良 栄	池 尾 真 理	(株)ルー ト シ ー 代表取締役 小谷裕雄
山 田 健 朗	前 田 厚 彦	吉 田 由 美 子	眞 弓 知 也
三 国 山 の 風 の 館 代表 西 上 洋 治	正 林 督 章	伊 藤 友 理 重	原 田 潤 哉
(医)乾 医 院 理事長 乾 俊 彦	川 口 ア ヤ 子	竹 田 江 海 子	リセット ミゾグチ
秋 崎 る り 子	山 田 太 郎	(株)ミナミコーポレーション 代表取締役 岡本安量	松 永 隆 夫
中 村 敏 江	桑 村 小 夜 子	船 井 武 彦	谷 口 鉄 之 助
中 嶋 哲 一	(有)岩田小型運送 (特非)Living in Peace	(株)ヤマネ機材 代表取締役 山根茂	福 田 眞
(株)信勝丸漁業 代表取締役 山岡寛人	片 村 俊 子	唐池学園 安部慎吾	シ ミ ズ ナ ギ サ
林 敬 二 郎	木 村 和 子	鳥取更生保護女性会 会 長 坂 尻 恭 子	キままッズ CLUB 児倉仁美
前 田 悦 子	加 藤 礼 二	濱 田 久 美	鳥取東更生保護女性会 会 長 原 田 幸 代
尾 崎 三 智 子	鳥 取 鶏 卵 販 売 (株)	小 竹 原 寛	伊 藤 文 明
林 和 宏、加代子	中 電 工 (株)鳥取支店	鳥取国府更生保護女性会 会 長 中 嶋 久 恵	高 野 晃 一
北 室 育 子	中 村 艶 子	岸 田 洋 子	影 久 眞 智
(株)コ タ ニ 代表取締役 小谷憲司	草 野 雅 昭	田 中 嘉 鶴 子	(株)岩田兼商店
(株)メモワールイナバ	(医)萩 原 医 院	(福)あ す な ろ 会	市 谷 成 子
巻 田 豊	岡 本 智 鶴 子	山 本 智 丈	天 徳 寺
神 戸 直 登	前 田 俊 和	岡垣七宝研究所 岡垣幸得	米子信愛鍼治療院 松 本 剛 典
谷 島 伸 二	鳥 山 玲 子	鳥取市歴史博物館	川 口 敬 恵
(医)橋本外科医院 理事長 橋本篤徳	山 田 敏 明	鳥取南更生保護女性会 会 長 小宮山富美子	菊 地 み つ え
濱 本 義 則	木 村 肇	西村 建次、萬喜子	鳥 取 市 仏 教 会
日 海 通 信 工 業 (株)	山 下 孝 子	福 田 修 三	檀 上 仁
寺 坂 光 博	西 尾 茂、美智子	山 中 友 子	市 谷 年 弘
勢 木 宇 太 郎	谷 本 正 道	(医)若 桜 柿 坂 医 院	(株)マ ツ フ
安 岡 弘 起	鳥取教会愛真幼稚園合同バザー	江 谷 孝 明	伊 藤 文 代
リ ベ ッ ト ・ ワ ン	広 谷 笑 子	松 永 陽 明	山陰酸素工業(株)鳥取支店
谷 口 香 与 子	岡 村 進、衣織	原 雅 子	山 本 博
(株)アベ鳥取堂 代表取締役 阿部正昭	木 本 裕 治	澤 田 孝 義	無 名 氏
妙元寺 住職 明里好弘	上 嶋 純 子	常 井 幹 生	
	山 根 浩 子	大 雲 院	
	福 寿 み どり		
	下 園 裕 一		
	米 本 萬 世		
	川 口 正 男		

物 品 寄 付 者 (R 1. 5. 8 ~ R 1.10.28)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
U F O 安 長	(株) 明 治 C S R 推 進	大 雲 院	前 田 修 志、純 子
U F O 吉 方	部 長 松 岡 伸 次	真 弓 知 也	高 野 晃 一
U F O 扇 町	森 田 悟	(株) ヤ マ ネ 機 材	ハ ロ ー ズ 鳥 取 店
U F O 秋 里	中 村 艶 子	小 川 尚 美	林 昭 男
サンヨーグループ総合事務所	い さ み や 商 店	斎 藤 正 七 郎	長 谷 川 正 昭
サンヨーグループ総合事務所 UF0吉方	パンドラの箱鳥取店	ヤ ッ ホ ー ! キ ッ ズ	市 谷 年 弘
ガイア広島駅前	奥 田 吉 春	代 表 足 本 安 恵	鳥 取 教 弘
江 崎 グ リ コ (株)	廣 信 青 果	中 村 京 子	代表取締役 前田厚彦
前 田 美 佐 江	山 根 茂	竹 中 由 紀 夫	加 藤 貴 代 美
鳥取いなばライオンズクラブ	愛・あいネットワーク	松 永 隆 夫	日本画グループ鳥 白岡文江
竹 内 幸 子	田村 美好、真由美	福 田 眞 優	日ノ丸グループ 三火会
松 下 暢 子	山 本 禎 子	光 浪 小 四 郎	無 名 氏
森 本 博 美	大 田 原 俊 輔	手 皮 藤 山 税 理 士 事 務 所 藤 山 倫 史	
土 井 倫 子	本 光 寺	柳 田 次 郎	
松 井 誠	西 田 ふ じ 子		

ありがとうございました

今年度、鳥取県共同募金会を通じ（株）光琳グループホールディングス様より、ご寄付をいただきました。このご寄付を受け、老朽化していたオープンレンジ・洗濯機、丸洗い可能な乳児布団など購入させていただきました。

今までは老朽化でうまく焼けなかったケーキ生地も、これからは美味しく焼けると思います。子どもたちと一緒にケーキを作ってみんなで笑顔で食べたいです(*^-^*)

●寄付金は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内

TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106

鳥取銀行本店営業部

普通預金 7645611

山陰合同銀行鳥取営業部

普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤 野 興 一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会会費のどちらかに○をしてご入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部

普通預金 0405970

口座名義：鳥取こども学園後援会

会長 村 上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。